

今日、御声を聞くなり

2024年5月5日

ヘブル人への手紙 3章7～19節

民数記 14章(～21章)

コリント人への手紙Ⅰ 10章1～13節

詩篇 95篇7～11節

序：荒野（出エジプト～カナン）で、神に反逆したイスラエル 民数記 14～21章
カナンの地に入って安息を得ることなく、荒野で滅ぼされた
不信仰によって神から離反する者がないように、との警告 ⇒ 今日の信者にも
モーセは神の家のしもべとして忠実 VS 御子は神の家を治めるのに忠実



私たち（確信と希望を保つなら）

I. 荒野でのイスラエル

神の奇跡的なエジプトからの救出

雲の柱、火の柱によって、昼夜導かれた

食べ物、飲み水を与えられながら、不平不満、出て来たエジプトを慕う

神がお立てになったモーセにつぶやき、憎む

真の神ではなく、偶像を作って拝み、頼り、戯れる（金の子牛）

神よりもカナン人を恐れ、前進ではなく後退（神の約束を信じない）

不信仰 ⇒ 霊的姦淫 ⇒ 神の怒り ⇒ 刑罰（安息に入れない、滅ぼされる）

結果：カレブとヨシュア以外の旧世代のイスラエル人は約束の地に入る前に死ぬ

神は反逆の民に、燃える蛇を送る（青銅の蛇を仰ぎ見る者は生きた）

指導者モーセもピスガの山頂で、約束の地を遠望するも、そこで死ぬ

ゆえに、カナンに入って行って占領したのは、ヨシュアに率いられた新世代

II. 滅びた人々

(1) 聞いていながら、反抗した

全員モーセに率いられてエジプトを脱出した人々（奇跡の体験者）

(2) 40年間、神の御業を見てきた

度重なる、さまざまの、その時その場の必要に応えられる神の力ある業

逆らうなら懲らしめ、正す（神の慈愛に感謝しない、喜ばない）

(3) 罪を犯して悔い改めなかったので、宣告どおり屍を荒野にさらした

神の憤りを軽視、無視した（神の義を侮った）

(4) 常に心がさまよい、神の道を知らない、悟らない

一貫性なし、安定感なし、真実ではなく偽りを信じ愛する

(5) 怒り憤られる神の誓いが及ぶ対象

「彼らは決して、わたしの安息に入れない」（このまま、このとおり実現）

Ⅲ. 勧告 cf. コリントⅠ 10・6～13

- (1) 戒めのため (私たちを戒める実例として起こった)
- (2) 世の終わりに臨んでいる私たちへの教訓として
- (3) 不信仰な悪い心になって、生ける神から離れないように
- (4) 聖徒たちが、互いに励まし合い、罪に惑わされ、頑なにならないようにする
- (5) 最初の確信を最後まで保ち続けるように (with 希望)

Ⅳ. 結び

- (1) 無意識の罪、気がつかずに犯す罪がある
「罪と気がつかずにいる罪も主イエスにあって、お赦してください」と祈ろう
- (2) 聖霊が言われるとおりにする
明確に罪と自覚している罪は悔い改める (悔い改めなければ、その罪は残る)
罪と分かっているだけで、真に悔い改めなければ、赦されない
||
心を頑なにする
- (3) 聞いていながら、見ていながら、知っていながら、分かっているながら、その上で不信仰、不従順ならば、確信犯であって弁解の余地はない 神を侮るなかれ
- (4) 私たちはキリストにあずかる者となっている、主によって、信仰によって神の子とされている、このはじめの確信を保ち続けるように励まし合おう
- (5) だれも落伍者にならないように、みことばを分かち合い、執り成して祈り、励まし合う
- (6) 「自分ひとりぐらいいは……」ではなく、一人の神への不信仰・不従順は群れ全体に、ほかの神の家族にも悪い影響を及ぼす 自分だけの問題ではない
教会は生ける神の民の信仰生命共同体 互いにつながっている
- (7) 「今日」聞く主の御声に聞いて従う
∴ 現実、現在だけが実在のとき (過去は過ぎ去った、未来の保証はない)